

# 博物館資源のオープン化、活用による文化創造 ～知産知承を目指して～

---

小川義和

国立科学博物館

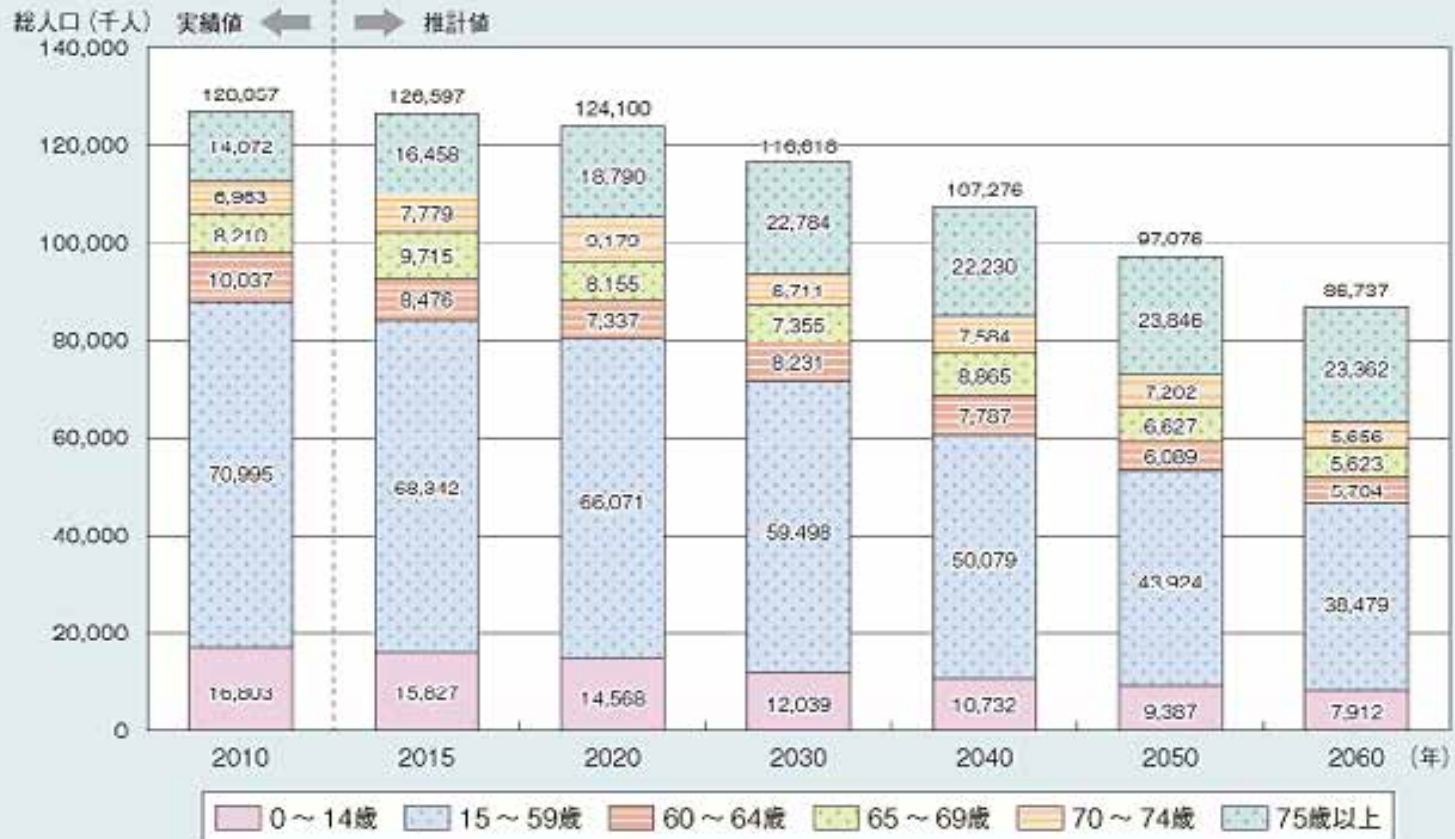
2015.10.10

シンポジウム「これからのスポーツ博物館のあり方について」

@東京国際フォーラム

# 2060年の日本

図1-1-3 年齢区分別将来人口推計



資料：2010年は総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

(注) 2010年の総数は年齢不詳を含む。

出典：内閣府：平成24年版高齢者白書

[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/s1\\_1\\_1\\_02.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/s1_1_1_02.html)



2015年7月14日リニューアルオープン  
地球館1階 地球史ナビゲーター

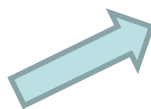


2015年7月14日リニューアルオープン  
地球館3階：親と子のたんけんひろば コンパス

# ひろがる、つながる、博物館資料の文化的価値



ハチの剥製標本@国立科学博物館

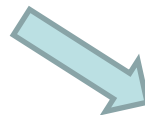


『HACHI 約束の犬』

『ハチ公物語』

JRハチ公神社

忠犬ハチ公像



内蔵標本@東大総合博物館

## 自然史標本情報検索

→ ENGLISH

→ 詳細ページへ

全国の自然史系博物館が所有する、生物多様性に関する標本情報を検索することができます

キーワード

検索

## 研究員・学芸員検索

→ 詳細ページへ

全国の博物館等に所属する、研究員や学芸員を検索することができます

キーワード

検索



世界の生物多様性に関する自然史標本情報を検索することができます

→ 詳細ページへ



→ GBIF日本ポータルサイト

## 生物多様性情報発信のツール

■データ変換ツール ダウンロード( [\*] をクリックしてください。)

1. データ変換メインツール 一括 (2012/3/7更新) zip形式 [\*]
2. 設定ファイル (2013/3/4更新) zip形式 [\*]
3. データ事前整形支援ツール (2010/7/22更新) zip形式 [\*]
4. マニュアル(標本データ変換ツール説明書 v3.0) pdf形式 [\*]

■自然史研究のための地名辞書

地名辞書のリイトが開かれます

沿岸地名についての地名辞書はこちら

## お知らせ

- 2014/05/14 左欄のレッドリスト種の検索・データ付加サービス(植物版)を更新しました(岐阜・山形県改訂を反映)。
- 2014/05/02 6月2日(月)に第23回標本情報の発信に関する研究会が開催されます。詳細は別添案内をご覧ください。  
[案内]
- 2014/02/17 1982年(昭和57年)に出版された「日本沿岸地名表(海上保安庁水路部編)」に基づいた沿岸地名辞書を作成しました。  
詳しくはこちら
- 2013/12/26 12月14日に通算第8回 GBIFワークショップ「外米種・移入種と生物多様性情報」が開催されました。

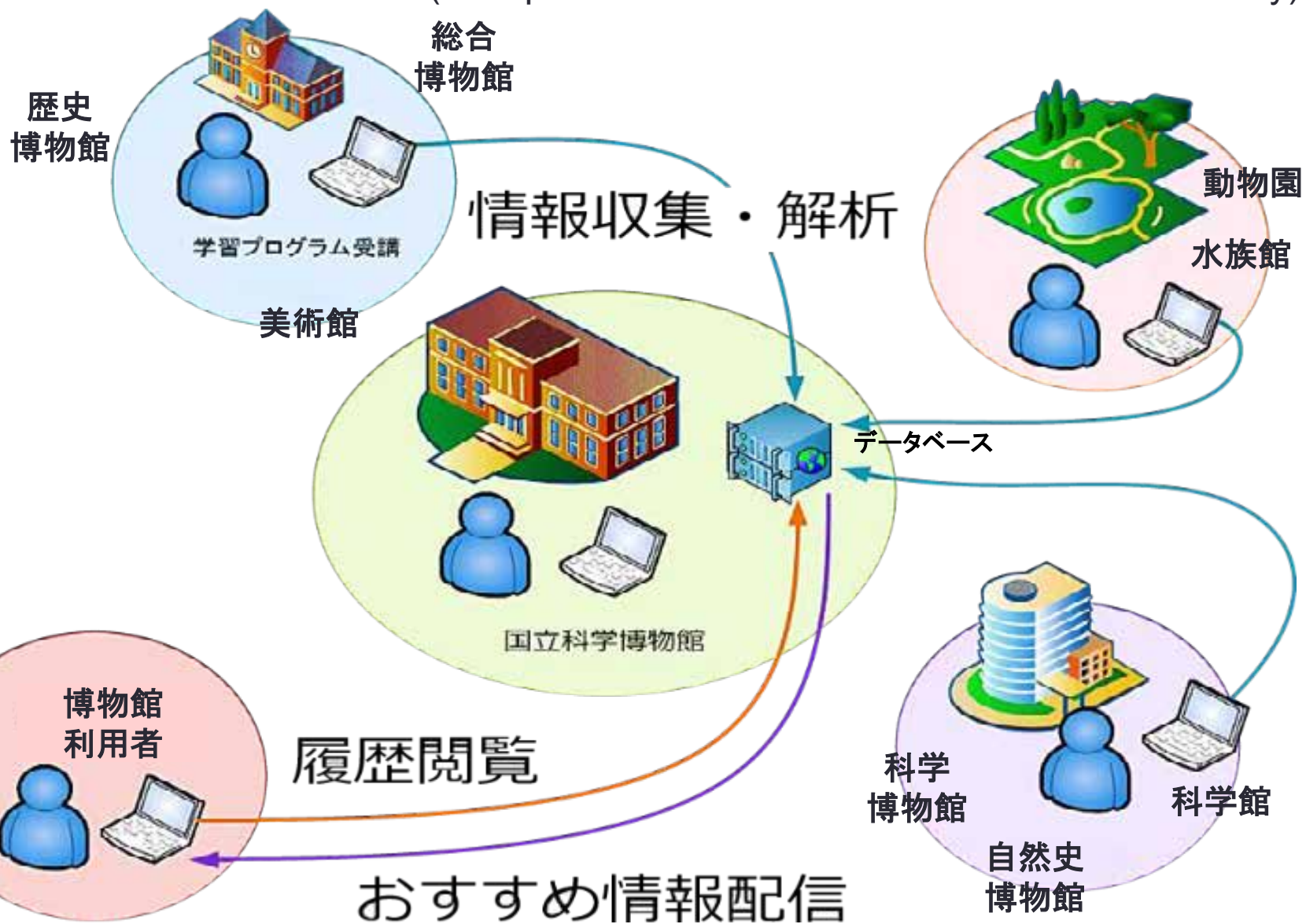
# 科学系博物館における 「科学リテラシー涵養活動」の体系

世代・ライフ	幼・小(低学年)	小(高学年)・中	高校・高等教育	子育て・壮年期	熟年期・高齢期
<b>学習目標</b> 感性の <b>感じる</b> 知識の <b>知る</b> 科学的 <b>考える</b> 社会 <b>行動する</b>	現代及びポストモダンに 求められる目標 ○科学や技術に親しむ体験を通じて、身のまわりの事象の不思議さ等を感じる。 ○身のまわりの自然事象や技術の仕組みを体験的に知り、わかることを実感する。 ○興味・関心を持った事象について積極的に調べ、活動し、自分の考えを持つようになる。	現代及びポストモダンに 求められる目標 ○科学や技術に親しむ体験を通じて、科学に対する興味・関心や実生活との関わりを感じる。 ○自分で進んで観察をしたり、疑問を探究する意欲を持つ。 ○自然界や人間社会に興味・関心を持ち、興味・関心を持った事象について、その規則性や関係性を思い出す。	現代及びポストモダンに 求められる目標 ○科学や技術に親しむ体験を通じて、科学に対する興味・関心や疑問を探究する意欲を持ち、科学の有用性を感じる。 ○科学や技術の分野で働く人に興味を持つ。 ○多くの不確実な情報の中から科学的な知識に基づいて疑問を探究し、結論を導く。	現代及びポストモダンに 求められる目標 (子育て期) ○子どもと一緒に学ぶことで、科学の有用性や科学リテラシーの必要性への意識を高める。 (壮年期) ○科学および技術に対して、生涯・関心の視野を探究する意欲を継続的に持つ。 ○持続可能な社会を維持するために行動しようとする。 (子育て期) ○子どもと一緒に学ぶことで、生活や社会を支えている科学や技術の知識や概念について幅広く理解を深める。 (壮年期) ○豊かに情報を取り入れ、生活や社会を支えている科学や技術の知識や役割について継続的に幅広く理解を深める。	現代及びポストモダンに 求められる目標 ○科学および技術に対して、より豊かに情報を取り入れ、継続的に好奇心と興味を示す。 ○持続可能な社会を維持するために行動しようとする。 ○豊かに情報を取り入れ、生活や社会を支えている科学や技術の知識や役割について継続的に幅広く理解を深める。 ○自身の趣味・着書等、個々の興味・関心に応じて科学的知識を身につける。 ○生活及び社会上の課題に対し、学んだことを社会的に活かすし、科学的な考え方を持って結論を導く。 ○学んだ成果を、自身の趣味・教養に活かす。 ○地域の課題を見出し、その解決に向けてよりよい方向性を見出し、判断する。 ○自身の持っている知識・能力を、社会の状況に応じて適切に効果的に次の世代へと伝える。

# 全体構想

科学リテラシーパスポートβ

PCALi (Passport of Communication and Action for Literacy)





「教員のための博物館の日」

平成26年度

18地域

92機関

1545人の教員



# 「教員のための博物館の日」各地の状況を踏まえた開催・運営形態（26年度）

主催館名	対象エリア	運営形態
旭川市科学館	市	持ち回り開催
北海道開拓の村	市	中心館開催
おびひろ動物園・帯広百年記念館	十勝管内	中心館開催
苫小牧市美術博物館	市	単館開催
ムシテックワールド	市	中心館開催
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	県	単館開催
長野市立博物館	市	単館開催
千葉県立現代産業科学館	県	単館開催
浜松市博物館	市	中心館開催
静岡科学館	県	中心館開催
蒲郡市生命の海科学館	東三河地区	持ち回り開催
大阪市立自然史博物館	府	中心館開催
大阪歴史博物館	府	単館開催
島根県立三瓶自然館	県	単館開催
鳥取県立博物館	県	単館開催
徳島県立博物館	県	単館開催
宮崎県総合博物館	県	持ち回り開催

単館開催：ひとつの館で行う運営方法。

中心館開催：主会場となる博物館があり、近隣の機関が協力・出展する運営方法。

持ち回り開催：中心館開催のうち、主会場を順番に変更する運営方法。

（土屋他，2014）

# 知産知承

## 地域に根ざしたサイエンスコミュニケーション

- ・地域の課題に対し、知恵を出し合い、解決していく
- ・地域にある知を掘り起こし、知を創造し、知を共有し、継承し、発信していく活動

○リテラシーが広く行き渡ることによる社会的コストの削減

○教育・人材育成への貢献

○文化の醸成

○科学を通じた地域の活性化

